



大阪府保育士会だより

ほほえみ

令和6年
7月1日

138号

発行 大阪府社会福祉協議会 保育部会・保育士会 大阪市中央区中寺1-1-54 ☎ 06-6762-9001

会長挨拶

大阪府保育士会会長

伊藤 裕子



新年度がスタートしてはや三カ月、各園では、新人児も落ち着き保育を進めておられることと思います。

平素は保育士会事業にご協力いただき、感謝申しあげます。保育士会は去る5月15日シエラトン都ホテル大阪で、令和6年度の総会を開催いたしました。

式典には、大阪府子ども家庭局局長の福本泰延様、子育て支援課課長の山内哲也様にご臨席いただき、また、森田信司保育部会長、大阪府社会福祉協議会の森垣学常務理事にもご出席いただき花を添えていただきました。議事報告後の記念講演では、ノンフィクション作家の石井光太氏をお迎えし、盛会のうちに終えることができました。

昨年、「子ども大綱」「子ども未来戦略」「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」が閣議決定され、こどもまんなか社会の実現に向け、各種施策が進められています。

しかしながら昨今の不適切な保育に関する報道に接することが多く、心が痛みます。

子どもの人権を守ることがどういうことなのか、常に考えたり、悩んだりしながら、これまでの「あたり前」を見直し、保育をアップデートする必要があると感じます。また、保育者の言動や行動にも十分な配慮が求められています。

本紙「ほほえみ」のほか全国保育士会機関誌「保育士会だより」、同会ホームページには、人権擁護のためのセルフチェックリストや研修会、他府県市の保育への取り組みなど保育に役立つさまざまな動画や情報がアップされており、自己の保育の振り返りや園内研修に役立てていただきたいと思います。最後になりましたが、皆様の健康とご活躍をお祈りし、今後とも保育士会事業に、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和6年度

総会報告

斉唱しました。

令和6年度保育士会総会を5月15日(水)にシエラトン都ホテル大阪で開催し150名を超える会員が集いました。

第一部の式典では、全国保育士会倫理綱領、食育ビジョンの唱和、保育士会の歌「私たちがいるんです」を

伊藤会長の開会挨拶に引き続いて、在会10年職員代表として信達こども園の梶谷水甫先生へ感謝状が贈られました。

また式典では、来賓を代表して大阪府福祉部子ども家庭局局長、福本泰延様からご祝辞をいただきました。

議事では、令和5年度事業報告・収支決算、令和6年度事業計画・収支予算が報告されました。

第二部の記念講演ではノンフィクション作家の石井光太氏をお迎えし「人として育てるために必要なこと」をテーマに講演いただきました。

(2面に詳細)

ワクワク EXPOwith

第19回食育推進全国大会

6月1日・

2日に大阪南港ATC

ホールで、

「いのち輝く

ミライ食育」

をテーマに

した、大規模

イベント「ワクワクEXPO With」第19回食育推進全国大会が開催され、保育士会は、「乳幼児期からの食育」をテーマに出展いたしました。

保育士会のブースには、展示の三色レンジャーがご出迎えし、全国保育士会食育推進ビジョンの掲示、保育士会作成の時短簡単レシピ集と全国保育士会食育パンプレットの配布を行いました。

2日間で約800名が来場。「赤・黄・緑の食品3色分けクイズ」「野菜・果物の断面あてクイズ」を、親子だけでなく、一般の方、学生も、真剣にチャレンジされ、とても盛り上がりました。

保育園・こども園が取り組む食育を、保育関係者だけでなく、一般の方々にも周知できる貴重な経験をさせていただきました。



記念講演

人として育てるために必要なこと

ノンフィクション作家 石井 光太氏



石井 光太氏

『国語力』とは？

『国語力』とは、年相応の「語彙力」を基に、「感じる力」「想像する力」「考える力」を養い、「表す力」を作りあげることです。

これが「生きる力」につながります。根底には言葉があり、感情を言葉にすることで生活が豊かになります。

教員の指摘と現状

石井氏の調査によると、8割の教員が国語力の低下を指摘しています。子どもたちは「やばい」「えぐい」といった極端な言葉を多用し、自分や他人の感情を整理するのが苦手です。

人との会話がうまくできず、すぐに「うざい」「キモイ」「死ね」などの言葉でけん

かになることも多いです。また、トラブルが起きた際、その原因を考えられず、相手だけが悪いと思ってしまうことが増えています。

国語力低下の原因

国語力の低下は、スマホ育児や映像アプリの利用増加、親の声かけの減少が原因とされています。

親が強い口調で注意や命令をするだけで、子どもは他者との交流が減り、自由な遊びの機会も少ないため、言葉の力が育ちにくくなっています。

国語力を育てるために大人ができること

・問いかけ型の会話
子どもに理由を尋ね、気もちや状況に対して細かい表現を教えることで、言葉で思考するクセをつけます。

・多くの体験をする
本物にふれる経験が五感を刺激し、言葉を生みま

す。体験を言語化することが重要です。

また言語化できなかった経験も同じく重要で、その時の想いが「心のフック」となつて成長したときに言語化できるようになります。

・詩的言語世界の体験
多様な表現にふれることで、感情を段階的に変化できます。

・思考を停止させない
威圧的な言葉や大きな声は、子どもを萎縮させ、考える力を奪います。

・心の原風景を大切に
美味しい食事や楽しい思い出、他人との温かい交流が「心の原風景」となります。新しい価値観は大人との関わりから生まれます。

環境を整える

幼少期から自分や他者の気もちを自然に言語化できるよう、多くの声かけや会話を通じて環境を整えることが重要です。これからも、保育現場で実践し、子どもたちが『国語力』を備え、豊かに育つよう尽力していきましよう。

～令和6年度 事業計画～

キャリアアップ研修

『食育・アレルギー対応』
10月7日(月)・8日(火)・9日(水)
講師…小川 雄二氏
(名古屋短期大学保育科 教授)

保育士人材確保事業の実施

- ◆在会10年職員への感謝状と記念品の贈呈
- ◆保育士養成校等へ保育士派遣事業

関係団体事業への参画

- ◆大阪府食育推進ネットワーク会議
- ◆大阪府食育推進計画評価審議会
- ◆大阪民間社会福祉事業従事者共済会 福利厚生運営委員会
- ◆ちゃいるどネット大阪 人権保育講座企画会議

機関紙・研究レポートの発行

- ◆機関紙『ほほえみ』の発行(年4回を予定)
- ◆研修レポートの作成
(機関紙『ほほえみ』に記載)

- ◆各種委員会の運営
研修企画委員会
自主研修委員会
食育推進委員会
- ◆ハンドブック『ほほえみ』の頒布
- ◆ブロック活動の強化

近畿・全国関係事業への協力・参加

- ◆近畿ブロック保育士会リーダーセミナー
(9月21日/京都市)
- ◆近畿ブロック保育士会会長会(年3回)
- ◆全国保育士会研究大会
(11月21・22日/高知県)
- ◆全国保育研究大会
(10月17・18日/奈良県)
- ◆全国保育士会食育推進研修会
(7月25・26日)
- ◆全国保育士会委員総会
(6月12日・2月27日/全社協)
- ◆全国保育士会委員連絡会(年3回)
- ◆都道府県・指定都市保育士会 正副会長セミナー(年1回)

保育士研修会

- ◆『造形活動について』6月11日(火)終了
講師…村田 夕紀氏
(造形教育研究所「こどものアトリエ」代表)
- ◆『運動・発達支援』7月29日(月)
講師…前橋 明氏
(早稲田大学人間科学学術院 健康福祉科学科 教授)
- ◆『幼児教育』8月5日(月)
講師…長瀬 美子氏
(大阪大谷大学教育学部 教授)
- ◆『子どもの人権について』9月24日(火)
講師…渡邊 安衣子氏
(株式会社PLATICA代表)
- ◆『マナー研修』2月17日(月)
講師…増田 知乃氏
(有限会社レイズ 人材育成コンサルタント)
- ◆『災害時の乳幼児支援について』(未定)
※随時、研修開催のご案内をいたします。



学びシリーズ vol.66

子育て支援の意義①

神戸松蔭女子学院大学
教育学部教育学科 元教授

寺見 陽子

Profile

現在、同大学「こころのケアセンター」に
在籍。
発達心理学、乳幼児教育学、子育て支援を
専門とされている。

1 今日の子育ての現状と 子育て支援の必要性

今日、近代化・都市化・情報化などによる社会の構造や価値観の変化、少子化・核家族化の進行による地域社会の崩壊、人間関係の希薄化、地域・家庭の教育力の低下等、子育て・子育てに必要な環境が損なわれています。そうした中で、多くの保護者は、子どもとかかわった経験や自分の子ども以外の子どもにふれる機会もないまま、子育てをしなければならぬ状況に置かれています。また、親族や友人からのサポートを得にくい地域で「アウェイ育児」「ワンオペ育児」で孤軍奮闘するケースも少なくありません。

育児は、手間のかかるこ

とです。「アウェイ」「ワンオペ」では、育児への不安やストレスが増大し、気がつかないうちに不適切な養育や虐待になってしまうこともあります。こうした現状から、子育て支援の必要性が叫ばれていることはすでに周知のとおりです。

2 人口減少時代の到来と 核家族の変化

2023（令和5）年人口動態統計（厚生労働省）によると合計特殊出生率は1.20と過去最低となり、人口減少社会の到来が危惧されています。核家族化も、2020年度の国勢調査（総務省）では、単独世帯が38.1%と最も多く、

夫婦のみの世帯は20.1%、ひとり親と子どもからなる世帯は9.0%で、両者を合わせると夫婦と子どもからなる世帯25.1%を上回っていました。このように、少子化・核家族化は状況が以前に比べ、内容的に変わってきています。

今後、ますます地域の子どもの数が減少し、家族も高齢者や独身者の単独世帯が増加し、地域のつながりの希薄化等が進行することが想定されます。これからは、家族のサポートが得られるかどうかによって、地域社会の中で豊かに暮らしていくことができる方策を考えなければなりません。

これまでも、そうしたサポートシステムが模索されてきていますが、さらに、家族による支援を前提としないうちに、公的サービスや地域社会のつながりづくり、生活の満足度を高めるような工夫が求められます。保育所や認定こども園等が地域や家庭に向けて提供する保育（一時預かりや延長保育、子育てへの相談助言等）は、その一端として重要な意義をもっています。

3 これからの子育て支援

「1.57ショック」以降、子育ての負担や不安を軽減し、健全な子どもの育ちを保障するとともに子どもを産み育てやすい社会を実現するために、国はさまざまな子育て支援政策を展開してきました。

2012年（平成24）年には子ども・子育て支援法が策定され、子ども・子育て新制度（2015年）によって、新たな時代に向けた子育てへの仕組みづくりがはじまりました。保育・幼児教育関連では、幼児教育の機会を保障し、地域の実情に応じて、認定こども園制度を活用して在宅の子育て家庭を含め地域の実情に応じた子育て支援の展開が示されました。

さらに、2023年4月には子ども家庭庁が発足し、「こどももまんなか社会」の実現を目標に「子ども未来戦略」が出され、すべてのこども・子育て世帯を対象に切れ目なく子育て世帯を支援する方針のもと、「こども誰でも通園制度」の創設や、保育所の質の向上（保育者の配置改善・処遇改

善）、多様なニーズ下の対応（貧困、虐待防止、障害児・医療的ケア等）への取り組みがはじまっています。

4 これからの保育における 子育て支援の多様な 意義を問う

保育・幼児教育においても、こうした社会の動向を踏まえ、これからの時代に対応した子育て支援の在り方を考える必要があります。保育者は、子どもを育てるパートナーとして保護者との信頼関係を深め、日ごろの保育に保護者を巻きこみながら、全ての子どもたちに格差なく質の高い幼児教育・保育を保障していく必要があります。保護者を日常の保育に巻き込みながら子育て支援をしていくことは、保育の質の向上にもつながります。

OECD（2006・2015）によると、保護者と保育者が日々の子どもの情報を交換し合う、社会性の育ちや日課・子どもの発達と学びなどに対して一貫したアプローチを保つことで、園の保育の質及び、家庭での育児や学びの環境も向上

すると指摘されています。筆者がおこなった0・1・2歳の担当保育者への調査研究2024では、保護者への情報提供が、言葉の保育の内容（言葉によるコミュニケーション・自己表現）を介して、保育の構造の質（発達や興味に応じた遊具・道具・素材等）と保育のプロセスの質（子ども主体）に影響を与えていました。また、子どもの社会・情動能力（共感性）に、保護者への情報提供が直接影響していました。

いま、保育の質の向上は、喫緊の課題です。これまで保育の場で行われてきた子育て支援を、これからの時代に応じたものへと転換を図り、日ごろの保育と連動させながら見直していく必要があるでしょう。園で行っている子育て支援が、子どもの発達にどのような影響を及ぼすのか、保護者の養育性の向上にどのように寄与しているのか、また保育の質とのかに関連しているのか、というアウトカムを問い直していく視点をもちたいものです。

保育の王手箱

担当 堺ブロック

これからの時期、雨の日や暑さが続き お部屋で過ごすことが多くなってくると思います。
そういうときこそ、子どもたちが心穏やかに遊びこめるような手作りおもちゃを取り入れてはどうでしょうか。

みんな大好き♡りとりほーむ

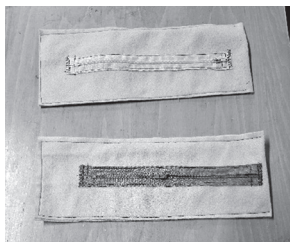
【材料：ダンボール・カラービニールテープなど】
大きめのダンボール箱の側面にカッターで丸や四角の窓や入口と出口を作ります。
カッターで切った部分は、いろんな色のビニールテープを貼り、補強してください。
入口や出口はスズランテープをのれんのようにぶらさげ、床は布ガムテープで作ります。屋根を開くことにより、子どもたちがお家の中で立ちあがることができたり、保育者が



子どものようすをのぞきこむことができたり便利です。
運動遊びやごっこあそび、カームダウンの空間におすすめです。

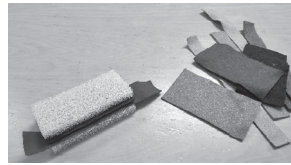
ぱくぱくチャック

【材料：チャック1つ・フェルト2枚】
1枚目のフェルトにハサミで穴をあけ、チャックを取り付けてください。
同じ大きさの2枚目のフェルトを重ねて縫い合わせます。
チャックの開け閉めは、子どもたちの指先の運動にぴったりです。
小物袋にもなり、気に入ったおもちゃを入れて遊ぶこともできますよ。



フェルトあそび

【材料：フェルトやスポンジなど】
フェルトの切れ端やスポンジを使って、見立て遊びができます。サンドウィッチを作ったり、海苔巻きを作ったり、子どもたちの創造はつきません。
フェルトは洗うこともでき、いろんな用途につかえますよ。



輪っかとおし

【材料：ラップの芯・マスキングテープ・15mm幅布】
ラップの芯をマスキングテープで巻くとかわいくできます。
15mm幅の布を適当な長さに切り、両端を縫って輪っかにします。
ラップの芯に輪っかとおしをしたり、芯の中に輪っかを詰めたり、子どもたちの遊び方はさまざまで面白いですよ。



ぽっとんボックス

【材料：ダンボール箱・目の大きい網・布テープ】
ダンボールの上部に網を取り付け、布テープで貼り付けるだけでできあがり！側面におもちゃを取り出す穴をカッターであけ、穴の周りは布テープで補強してください。積み木を落としてみたり、ミニカーを落としてみたり、物の大きさを考える子どもたちの姿が見られますよ。



手作りおもちゃは、子どもたちのあそびの創造性を広げてくれます。作成した保育者の意図とは違った遊びに発展することもあり、次への制作意欲につながります。みなさんもぜひ作ってみてくださいね。

編集後記

新年度がはじまり3カ月が過ぎました。

5月の総会には、たくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。

6月1～2日は、ATCホールでのワクワクEXPO With 第19回食育推進全国大会が行われました。

大阪府保育士会も出展し、大人も子どもも、食育クイズなどに参加いただき、盛況のうちに終わることができました。

今年度保育士会では、子どもたちが健やかに成長できるよう、食育、乳児保育、造形人権、災害時の安全など、さまざまな研修を企画しておりますので、ぜひご参加いただき、研鑽を深めていただきますよう、よろしく願いいたします。
(U・M)

